

15 いくつになっても自分らしく暮らせる地域に（高齢者）

（ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、栗原類がお届けします。今日のタイトルは「いくつになっても自分らしく暮らせる地域に」です。

神奈川県かながわけんの介護事業所「あおいけあ」には、認知症の高齢者が生活するグループホームと、通い・泊り・訪問の介護サービスを提供する施設があります。

独自の取り組みがメディアでも注目され、見学者は全国各地や海外からも訪れます。
社長の加藤忠相さんにお話を伺いました。

15 【加藤さん役】私たちのケアの基本は、「決まり」ではなく「人」に合わせることです。

例えば、全員同じ時間にお茶や食事を出すような一律のサービスはしません。おむつ交換のタイミングは人によって違います。

20 こうしたケアをするには、相手ができないことに目を向けるのではなく、歩んできた人生を知ることが大事です。何が好きでどんな強みがあるのか、家族や近所の人からも情報を集め、スタッフで共有しています。

25

（ナレーター）「あおいけあ」では、活動内容も人それぞれです。釣りが趣味だった人は釣りに行き、農家だった人は畑で野菜を作り、駄菓子屋をしていた人は施設内でお店を開くなど、得意なことをしてきました。

30

餅つき大会や夏祭りでも、日頃の活動が生きています。スタッフと利用者が一緒に企画を考えて準備し、当日は利用者が育てた野菜で作った料理を出すなど、強みを活かして家族や地域の人をもてなしています。

35

施設の周囲には塀がなく、近所の人々が自由に出入りできる環境です。子どもたちが遊びに来たり、大人が茶飲み話に立ち寄ったり、普段から交流が行われています。利用者が外に出て、公園の清掃ボランティアに参加することもあります。

40

【加藤さん役】スタッフが何でもやってあげるのは、本人の自立を奪うことになります。お願いすれば家事を手伝ってくれるし、認知症の方も縫い物や庭仕事が上手で、私たちのほうが教えられています。

45

いろんな人から「ありがとう」と言われることが、皆さんの力になっていいます。

将来は誰もが年を取り、高齢者になります。高齢化と共に認知症になる人は増え、90歳では5割を超えます。こうした状況と向き合い、いくつになっても自分らしく暮らせる

環境を、地域ぐるみで築いていく必要があると思います。

(本文925字)